

でならせ給へりしに、おもはざるほかの事により、大臣とられて、太宰権帥にならせ給ひてながされ給ひし、いと心うかりし御むすめにおはします。

〔續世繼七 堀河の流〕爲隆宰相は、大辨にて中納言に成んとしけるにも、宰相中將なれども、大辨にお

とらず、何ごともつかへ、除目の執筆などもすれば、うれへとゞめなどし給ける、おほかたのものの上ずにて、鳥羽の御堂のいけほり山つくりなど、とりもちてさだし給とぞきこえ侍し、ゆゝしくうへをぞおほくもち給へるとうけたまはりし、六七人ともち給へりけるをよごとみにみおはしわたしけるとかや、冬はすみなどをたせて火をこしたる、きえがたにはいでつゝ、よもすがらありきたまひて、あさいをうまどきなどまでせられけるとぞ、さてそのうへどもみななかくよくて、いひかはしつゝ、ぞおはしける。

〔とりかへばや物語〕何時の頃にか、權大納言にて大將がけ給へる人略○中北の方二所ものし給ふ、

一人は源宰相と聞えしが、御女に物し給ふ、御志はいとしも優れねど、人より前にみそめ給ひてしかば、愚ならず思ひ聞え給ふ。略○中今一所は藤中納言と聞えしが、御女に物し給ふ、

〔源平盛衰記〕兼家季仲基高家繼忠雅等拍子附忠盛卒事

又或人ノ語ケルハ、昔モ係ルタメシナキニ非村上、帝ノ御宇、左中將兼家ト云人アリ、北方ヲ三人持タレバ、異名ニハ、三妻三ノ妻錐ト申ケリ、或時此三人ノ北方一所ニ寄合テ、姤色チタキイロノ顯レテ、打合取合髪カナグリ衣引破リ、ナンドシテ、見苦カリケレバ、中將ハ穴六借トテ、宿所ヲ捨テ出給ヌ、取サフル者モナクテ、二三日マテ組合テ息ツキ居タリ、二人ノ打合ハ常ノ事也、マシテ三人ナレバ、誰ヲ敵共ナク、向フヲ敵ト打合ケルコソ、咲シケレ、是モ五節ニ拍子ヲカヘテ、取障ル人ナギ宿ニハ、三妻錐コソ、挿合ナレ、穴廣々ヒロキ穴カナトハヤシケリ、

〔三輪物語五〕むかし大和國に、宇多の太郎なにがしと云者あり、文武有士なりければ、國の守親し